

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	A-750	16-066
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
<p>Five year change in alcohol intake and risk of breast cancer and coronary heart disease among postmenopausal women: prospective cohort study.</p> <p>前向きコホート研究：閉経後 5 年間の飲酒状況の変化と乳癌、冠動脈疾患リスクとの関連</p>		
執筆者		
Dam MK, Hvidtfeldt UA, Tjønneland A, Overvad K, Grønbæk M, Tolstrup JS.		
掲載誌		
BMJ. 2016 May 11;353:i2314. doi: 10.1136/bmj.i2314.		
キーワード		PMID
閉経後、アルコール、飲酒量、乳癌、冠動脈死、全死亡		27169583
要 旨		
目的：		
既報の横断研究では飲酒は乳癌のリスクを増やし冠動脈疾患のリスクを減らすと報告されている。前向きコホート研究で、閉経後 5 年間で飲酒量が増える女性は飲酒量が閉経前と変わらなかった女性と比較して、同様の仮説が成り立つかを検証する。		
方法：		
1993 年から 2012 年にデンマークで行われた前向きコホート研究とした。21,523 人の閉経後女性に対して 1993 年から 1998 年、1999 年から 2003 年と連続して行われた食事・癌・健康状態に関する 2 つの研究を用いた。約 11 年間追跡における乳癌、冠動脈疾患の罹患率、総死亡について、Cox 比例ハザードモデルを用いて閉経後 5 年の飲酒量変化によるハザード比を求めた。乳癌では調整因子を年齢、教育歴、BMI、喫煙状況、地中海食スコア、出産歴、子供の数、ホルモン療法とした。冠動脈疾患では調整因子を年齢、境域歴、BMI、地中海食スコア、喫煙、運動、高血圧、コレステロール値、糖尿病とした。		
結果：		
追跡の結果、乳癌 1,054 人、冠動脈疾患 1,750 人、総死亡 2,080 人を確認した。閉経後 5 年間で 7 杯/週飲酒が増えた女性では乳癌のハザード比が 1.13(95%CI 1.03-1.23)、14 杯/週増えた女性では 1.29(95%CI 1.07-1.55)だった。冠動脈疾患については前者が 0.89(95%CI 0.81-0.97)、後者が 0.78(95%CI 0.64-0.95)だった。閉経後に飲酒量が減った女性では両疾患の発生に影響がなかった。全死亡は 14 杯/週よりも飲酒量が増加した女性で増えた。		
結論：		
閉経後 5 年で飲酒量増加した女性は飲酒量不変の女性と比較して、乳癌のリスクが増え冠動脈疾患のリスクが減った。		